

模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表



法人名	(有)ヘルスサポート	代表者	高良 まき子
事業所名	小規模多機能型ホーム 若狭	管理者	具志 勇作

法人・事業所の特徴	多種の介護保険事業所を運営している法人です。 『安心できる住み慣れた住宅や地域で、自分らしく、これまでの暮らしを続けることができ』ように、利用者の思いや望みをくみとり、家族との密な連携、事業所の雰囲気作りが心がけています。
-----------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
								11人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所の自己評価の確認	当事業所を現在利用している方やこれから利用を希望している方が、小規模多機能のサービスを利用継続できるように事業所内での新型コロナ感染が発生しないよう努力する。	事業所に従事する職員は1週間に1回のPCR検査で陰性確認を行い、万全の状態に対応した結果、1人の感染者もなく、事業所の運営が行えており、サービス提供、新規受入が滞りなくできた。	コロナウィルスの感染力は高く、感染者数が一時的に減少しても、クラスターによるまん延、他の変異株への置き換え等があり、一切の予断を許さない状況、気を緩める事なく、目標は継続する事が妥当である。	当事業所を現在利用している方やこれから利用を希望している方が、小規模多機能のサービスを利用、継続できるように事業所内での新型コロナ感染が発生しないよう努力する。
B. 事業所のしつらえ・環境	施設内外の清掃を行い、気持ちよく施設を利用が出来るようにする。	施設内は新型コロナ感染防止の為、一般の出入りが禁止となった為、施設内の清掃は職員が全般的に行っている。	新型コロナ過で、皆が心に余裕を持っていない状況があり、施設内がキレイに片付いて利用者や職員が気持ちよく過ごせるようにする事が最低限私達にできる事、継続する事が妥当である。	施設内外の清掃を行い、気持ちよく施設を利用できるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	新型コロナが終息して、施設と地域の方々の安全が社会的に確保されるまでは高齢者への感染防止を第一として活動や関わりを控える。	新型コロナ感染者数は減少に転じているが、現時点では施設内への一般の方の自由な出入りや活動を認めていない	コロナウィルスは再流行、変異株置き換え等で感染対策を緩める事(地域交流室や施設内の自由な出入りや活用等)はできない。小規模、グループホームの利用者(高齢者)のサービスを安全に行う事が大切、目標は継続する事が妥当である。	新型コロナが落ち着き、施設と地域の方々が安全に活動できる状況が社会的に確保されるまで、事業所の利用者への感染防止を第一として活動や関わりを控える。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	困り事や利用相談等で事業所を訪れた場合は個別に話を聞いて、関係機関と協力しては対応できるようにする。	1Fには大型パテーションを設置、新規利用相談、急を要する相談等の場合に限り、感染対策を行った上、必要な方の困りごとに対応する事ができた。	困りごとや新規利用で事業所を訪れた特別な場合は、感染対策を万全に行った上で、個別で受け入れる等の対応は必要。	困り事や利用相談等で事業所を訪れた場合は個別に話を聞いて、関係機関と協力しては対応できるようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	「運営推進会議で地域の方で気になる方の情報や関わりがあれば、大小を問わず、事例報告や情報交換を行い、内容の詳細も記録にして継続して検討できるようにする」	利用者(高齢者)への感染防止を第一として、外部の担当者を招集しての運営推進会議の開催は控え、事業所職員と規模を縮小して行っている。	集合しての運営推進会議は新型コロナの今後の情勢を見ながら、メンバーの意見も踏まえて検討する。実際に開催できる時に現計画に取り組む事が妥当である。	「運営推進会議で地域の方で気になる方の情報や関わりがあれば、大小を問わず、事例報告や情報交換を行い、内容の詳細も記録にして継続して検討できるようにする」
F. 事業所の防災・災害対策	年2回の防災訓練には、1人でも多くの職員に参加できるようにする。	年2回、日中、夜間帯に火災を想定した訓練は、新型コロナの関係もあり、訓練は少人数シュミレーション方式で個別に実施した。	一人でも多くの職員に参加して、実際の流れを繰り返し行っていく必要があり、目標は継続する事が妥当である。	年2回の防災訓練には、1人でも多くの職員に参加できるようにする。